

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	花と緑の商品知識Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・グリーンコーディネートコース フラワーコーディネートコース・造園コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	花木、洋ラン、観葉植物等の栽培管理や販売に関する知識の学習。	到達目標	小売りの現場で求められる、お客様からの基礎的な質問等に答えられる知識の習得。			
担当教員	大久保 茂徳					
実務経験と授業との関わり	園芸会社での勤務経験、大型ガーデンセンターでの講習会講師の経験があり、植物に関する商品知識が豊富である。よって、小売りの現場で顧客へ説明することを想定し、実践的に指導することができる。					
テキスト・教材	フォーマット用紙、ファイル					
成績評価方法	毎回の授業で扱う植物それぞれについて、フォーマットにまとめたものによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	花木類	春の花木	
2	花木類	春の花木	
3	花木類	初夏の花木	
4	花木類	家庭果樹	
5	温室植物	洋ラン類	
6	温室植物	洋ラン類	
7	温室植物	観葉植物	
8	温室植物	観葉植物	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時のフォーマットが未提出の場合には減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 植物の出回り状況によって、指導内容や指導順序が変更になることがある。

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	園芸実習Ⅱ		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	植物栽培についての興味と関心を高めるとともに、適切な管理方法を学習する。	到達目標	圃場での時期に応じた管理方法を習得する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の生産知識を持つ。よってコース問わず最低限知っておくべき基本的な栽培知識、技術を指導することができる。				
テキスト・教材					
成績評価方法	出席状況、授業態度を総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。	

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	圃場管理	圃場での植物管理作業	
2	圃場管理	圃場での植物管理作業	
3	圃場管理	圃場での植物管理作業	
4	圃場管理	圃場での植物管理作業	
5	圃場管理	圃場での植物管理作業	
6	圃場管理	圃場での植物管理作業	
7	圃場管理	圃場での植物管理作業	
8	圃場管理	圃場での植物管理作業	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	花き生産技術Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	240		単位数	2
授業概要	花き全般の基本的な性質を理解し各種の栽培方法を学ぶ。季節ごとの栽培環境を理解させる。	到達目標	実生、栄養繁殖から開花までの応用的な栽培方法及び管理方法を習得する。さらに利用方法も習得する。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材	関連資料の配布					
成績評価方法	授業内で実施した実習に関する実技試験及び花き全般に関するレポートをまとめる。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ実技試験及びレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	繁殖	発芽率の向上方法	
2	繁殖	成苗率の向上方法	
3	繁殖	季節ごとの実生繁殖	
4	繁殖	宿根草の繁殖	
5	繁殖	球根植物の繁殖	
6	繁殖	多肉植物の繁殖	
7	繁殖	観葉植物の繁殖	
8	繁殖	ラン科植物の繁殖	
9	病理害虫	各病害に対応する農薬の選び方	
10	病理害虫	農薬の調整及び散布	
11	土壌・肥料	植物別の培養土の作成	
12	土壌・肥料	植物別の元肥・追肥の選定及び施肥	
13	生産・管理	花壇苗の生産・管理	
14	生産・管理	花壇苗の生産・管理	
15	生産・管理	花壇苗の生産・管理	
16	生産・管理	花壇苗の生産・管理	
17	生産・管理	鉢物の生産・管理	
18	生産・管理	鉢物の生産・管理	
19	生産・管理	切り花の生産・管理	
20	生産・管理	切り花の生産・管理	
21	生産・管理	ラン科植物の生産・管理	
22	生産・管理	ラン科植物の生産・管理	
23	生産・管理	多肉植物の生産・管理	
24	生産・管理	観葉植物の生産・管理	
25	利用	寄せ植えの作成	
26	利用	花壇作成	
27	利用	花壇作成	
28	利用	花壇のメンテナンス	
29	利用	切り花の前処理	
30	まとめ	年間授業の振り返り	
他教科との関連	欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。		備考 各季節に応じた植物を用いるため、指導順序は変更になることがある。

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	商品制作Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	各種イベントにおける販売実習を通じて商品を作成する。これらは計画、仕入、作成、単価計算、売上等の一連の販売業務について学ぶ。	到達目標	トレンドや地域性を理解した上での商品作成と経営的側面について理解する。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材	関連資料の配布					
成績評価方法	販売実習に関するレポートで評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	園芸商品の種類と役割①	野外用商品について	
2	園芸商品の種類と役割②	室内用商品について	
3	文花祭商品作成①	販売商品の作成計画	
4	文花祭商品作成②	POP等作成	
5	文花祭商品作成③	販売用花苗作成	
6	文花祭商品作成④	販売用鉢物作成	
7	販売時の注意点	販売手順、管理方法	
8	販売時の注意点	販売手順、管理方法	
9	商工祭用商品作成①	販売商品の作成計画	商工祭中止の場合には変更
10	商工祭用商品作成②	販売用寄せ植え作成	商工祭中止の場合には変更
11	商工祭用商品作成③	販売用花苗、鉢物作成	商工祭中止の場合には変更
12	商工祭用商品作成④	商品作成及び販売スペースのレイアウト	商工祭中止の場合には変更
13	マネジメント	販売経費の計算	
14	総括	復習、まとめ	
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	生産販売流通Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	園芸業界の川上から川下産業に至るまでの販売経路を要約し、その中身を解説。出荷した時点をスタートとして学んでいく。	到達目標	園芸生産者の立場になり、市場へ出荷した自分の商品がどのように流通し、販売されていくのかを理解する。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	（萩原）鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。（竹本）企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	試験期間中に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	園芸生産者	出荷の方法	
2	直売方法	直売所、通信販売の活用	
3	集荷業者	集荷のメリット、デメリット	
4	市場①	搬入、受付方法	
5	市場②	セリ、配送方法	
6	仲卸業者	注文、引荷の活用	
7	園芸店、ガーデンセンター	仕入、品出し、販売	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	施設管理Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	ガラス温室、硬質フィルムハウス、ビニールパイプハウスなどの維持管理方法を学ぶ。	到達目標	季節ごとの管理方法を習得する。また不測の事態に対応できる知識、技術も習得する。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材	関連資料の配布					
成績評価方法	授業に対する取り組み方及び筆記試験を実施し総合的に判断する。			認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ筆記試験の得点が60点以上で単位認定となる。	

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	温室管理	被覆資材の種類及び用途	
2	温室管理	被覆資材の施用方法	
3	温室管理	内張り資材の種類及び用途	
4	温室管理	内張り資材の施用方法	
5	温室管理	遮光用資材の種類及び用途	
6	温室管理	遮光用資材の施用方法	
7	温室管理	暖房、送風機の管理、灌水システムの維持管理	
8	総括・テスト	復習および筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	花き育種・繁殖			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	実際の育種・繁殖の手法を講義と実習を通して学習する。ペチュニアなどを使い実際に交配を行う。	到達目標	育種の基本である重複受精について深め、それに直面する問題や糸口を理解する。繁殖についての正しい手法を理解する。また育種に対する興味を深める。			
担当教員	萩原 文雄、高山 晃					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。(高山) 花き生産に従事するかたわら、土壤医の資格をもち、「首都圏土壤医の会」の会長も務める。よって、土壤肥料そのものに精通しているだけでなく、植物を生産する上での実用的な知識を指導することができる。					
テキスト・教材	関連資料の配布					
成績評価方法	試験期間中に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	花き育種・繁殖の概論	花きの繁殖および育種の概論について講義	
2	ペチュニアの育種の現状、交配実習	ペチュニアの育種について講義、交配実習	
3	ペチュニアの形質と遺伝、交配実習	ペチュニアの形質と遺伝について講義、交配実習	
4	ペチュニアの栄養繁殖実習	ペチュニアの挿し木の実習	
5	種苗法	種苗法の概要と品種登録について講義	
6	育種の基礎①	重複受精について	
7	育種の基礎②	品種改良の要点と実例に触れる	
8	種子繁殖	種子とは？、自殖・他殖	
9	種子繁殖	雑種強勢、雑種第一代種子、発芽とは？	
10	栄養繁殖	器官別の繁殖方法と意義	
11	栄養繁殖	繁殖に関わる環境条件	
12	繁殖実践	1年草、多年草の種子繁殖	
13	繁殖実践	球根植物の栄養繁殖	
14	繁殖実践	ラン類の株分け	
15	総括・テスト	復習および筆記試験	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	生育・開花調節概論			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	生育や開花をコントロールすることは生産の安定供給と効率性を高める技術の一つであり、その手法を講義と実習で学ぶ。	到達目標	生育の環境要因を理解し、生育調節のための処理と、それを補う生長調節物質の種類と使用方法について理解する。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材	花卉園芸学の基礎 (農山漁村文化協会)					
成績評価方法	最終回に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	生長と開花①	花きの生育・開花と環境要因	
2	生長と開花②	栄養生長と生殖生長	
3	生長と開花③	生殖生長と環境要因	
4	近代的花卉生産と開花調節	開花促成・抑制、DIF	
5	開花調節の手順①	日長処理による開花調節	
6	開花調節の手順②	温度処理による開花調節	
7	開花調節の手順③	生長調節物質による開花調節	
8	総括・テスト	復習および筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	農 業 機 械 Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	野菜生産に不可欠である農業機械の基礎知識及び操作技術を習得する。	到達目標	トラクター、動力噴霧器の基礎及び操作が習得できる。			
担当教員	加藤 修一					
実務経験と授業との関わり	農業改良普及員34年の実務経験があり、自らもトラクターをはじめ多くの農業機械を所有し、1haの水稲生産に携わっているため、実践的な指導ができる。大型特殊免許資格を所持。					
テキスト・教材	トラクター他農業機械に関する資料					
成績評価方法	最終回に農業機械のしくみや実技についての理解度の試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農作業安全について	農作業事故防止について	
2	トラクターの機能と基本操作	トラクターの機能、運転、作業機の操作	
3	刈払機について	刈払い機の操作・作業	
4	トラクター耕耘作業、動力噴霧器、管理機の機能と基本操作	トラクター、動力噴霧器、管理機の操作及び作業	
5	トラクター耕耘作業、動力噴霧器、管理機の機能と基本操作	トラクター、動力噴霧器、管理機の操作及び作業	
6	トラクター耕耘作業、動力噴霧器、管理機の機能と基本操作	トラクター、動力噴霧器、管理機の操作及び作業	
7	トラクター耕耘作業、動力噴霧器、管理機の機能と基本操作	トラクター、動力噴霧器、管理機の操作及び作業	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	マーケティングⅡ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース グリーンコーディネートコース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	農業や園芸におけるマーケティング手法について1年次より理解を深める。	到達目標	経営におけるマーケティングの役割を理解する。			
担当教員	河野 津子					
実務経験と 授業との関わり	中小企業診断士の資格を持ち、中小企業の支援に取り組む他、農業・地域活性化の取り組み支援にも関わる。また、行政の立場からも農業の6次産業化を支援するなど、実務に長けていることから、実際の現場に即した実践的な指導ができる。					
テキスト・教材	プリント等					
成績評価方法	授業内で提出するレポートや課題で評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	復習	1年次の振り返り	
2	マーケティングの実例	農業や園芸におけるマーケティングの例	
3	マーケティングの実例	農業や園芸におけるマーケティングの例	
4	マーケティングの実例	農業や園芸におけるマーケティングの例	
5	マーケティングの実例	農業や園芸におけるマーケティングの例	
6	マーケティングの実例	農業や園芸におけるマーケティングの例	見学
7	総括	これまでの授業のまとめ	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	農 業 簿 記 Ⅱ			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	農業簿記検定の3級レベルの基本的な知識を学習し、受験、合格を目指す。	到達目標	農業簿記検定3級に合格できるぐらいの知識を身につける。			
担当教員	伊東 政信					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材	農業簿記検定3級教科書（大原出版）、農業簿記検定3級問題集（大原出版）、電卓					
成績評価方法	各学期毎に行う筆記試験と出席状況によって総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農業簿記の概要 簿記一巡の手続き	テキストの説明と問題集の解答説明	
2	決算書の作成	テキストの説明と問題集の解答説明	
3	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
4	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説 前期試験	
5	固定資産・繰延資産	テキストの説明と問題集の解答説明	
6	原価計算	テキストの説明と問題集の解答説明	
7	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
8	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説 後期試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	花き輸出入概論			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	花きの輸出入の現状とそれに関わる用語、英語を学習し、模擬的に輸出入演習を行う。	到達目標	花き輸出入に関わる現状や専門用語を理解する。			
担当教員	海下 展也					
実務経験と授業との関わり	長年、花き輸入業務に携わり、海外での花き流通にも精通している。よって実際の業務をふまえての実践的な指導ができる。					
テキスト・教材	プリント等					
成績評価方法	演習への取り組み姿勢や、プレゼンで総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	日本と海外の花き業界の現状	世界と日本の花き業界の現場と傾向	
2	輸出入の現状	海外との輸出入の現状	
3	輸出入における鮮度保持	最新花き等の鮮度保持技術	
4	輸出入の知識	輸出入に関する知識	
5	輸出入の演習	翻訳機能を活用して模擬的に演習	
6	輸出入とマーケティング	花き輸出入を可能にするマーケティング	
7	プレゼン準備	海外の文献のプレゼンの準備	
8	まとめ	プレゼン発表	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	卒業研究			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	180		単位数	6
授業概要	研究の背景、課題のとらえ方、試験区の設定、栽培、分析、論文作成、発表方法を学習する。	到達目標	目的に応じた栽培管理とまとめ、分析、論文の作成ができる。ワード、エクセル、パワーポイントが使える。			
担当教員	湯本 達夫、齋藤 仁					
実務経験と授業との関わり	(湯本) 県農業大学校教授及び農業改良普及員として学生や若手農業後継者の論文作成指導を行ってきた。これらの経験を活かし、課題設定から課題解決まで総合的な指導が可能である。(齋藤) 県農業大学校及び農業改良普及員としての実務経験があり、多種の野菜について多様な栽培技術を習得しており、現場をふまえた実践的な指導ができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	卒業研究への取り組み経過や作成物(論文)の内容で評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	卒業研究の作成	研究テーマの検討	
2	卒業研究の作成	研究手法の検討	
3	卒業研究の作成	試験方法の設計	
4	卒業研究の作成	調査・観察	
5	卒業研究の作成	調査・観察	
6	卒業研究の作成	調査・観察	
7	卒業研究の作成	調査・観察	
8	卒業研究の作成	調査・観察	
9	卒業研究の作成	調査・観察	
10	卒業研究の作成	調査・観察	
11	卒業研究の作成	調査・観察	
12	卒業研究の作成	調査・観察	
13	卒業研究の作成	調査・観察	
14	卒業研究の作成	調査・観察	
15	卒業研究の作成	調査のまとめ	
16	卒業研究の作成	調査のまとめ	
17	卒業研究の作成	調査のまとめ	
18	卒業研究の作成	調査のまとめ	
19	卒業研究の作成	論文まとめ	
20	卒業研究の作成	論文まとめ	
21	卒業研究の作成	論文まとめ	
22	卒業研究の作成	発表会準備	
23	卒業研究の作成	発表会準備	
24	卒業研究の作成	発表会準備	
25	卒業研究の作成	卒業研究（本文）の作成	
26	卒業研究の作成	卒業研究（本文）の作成	
27	卒業研究の作成	発表会	
28	卒業研究の作成	卒業作品展でのパネル発表の準備	
29			
30			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	インターンシップ			履修区分	必修	選択
受講対象	2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期または後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	外部企業において実際に現場を経験し、自身の現在の実力を理解するとともに企業担当者からも評価してもらうことで、今後の学習目標を定める。また、就職活動においても役立てる。	到達目標	自分の希望している企業（職種）での業務において、必要な知識と技術を理解するとともに、今後の学習目標を定める。			
担当教員	外部企業					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	考課表および実習報告書にもとづいて総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	企業研修	6～12日間程度外部企業で研修を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	管理実習			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	農場の管理を通して植物の適正な管理方法について学ぶ。	到達目標	様々な植物に対する管理方法を身に付ける。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり	(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。(竹本) 企業での実務経験はないが、大学では緑化植栽研究室に所属し、造園植物の研究を行っていた。よって、植物の基礎的な栽培知識・技術を指導することができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況、実習態度を総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農場等の管理実習	長期休業期間中に校内で管理実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2024年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	校内行事			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	120		単位数	4
授業概要	様々な校外行事に参加し、主体性、協調性、作業の計画性など、就職してからも活かせるような知識や技術を身につける。	到達目標	様々な校内行事を通して、主体性、協調性、計画性などを身につける。			
担当教員	萩原 文雄、竹本 春菜					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況や各行事への取り組む姿勢、レポート等を総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	新年度オリエンテーション	ガイダンス、健康診断等	
2	母の日販売会準備	母の日販売会に向けた準備	
3	母の日販売会	母の日販売会	2日間のうちどちらか1日出席
4	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
5	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
6	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
7	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
8	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
9	文化祭	展示／販売／体験教室等	
10	文化祭	展示／販売／体験教室等	
11	文化祭 片付け	文化祭の片付け	
12	卒業・進級作品展	展示等	
13	卒業・進級作品展 片付け	卒業・進級作品展の片付け	
14	卒業式予行	卒業式予行	
15	卒業式	卒業式	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考